

平成28年度 1学期 生徒対象授業評価を受けての分析と対策

教科名	分析	対策
国語	コミュニケーション型の授業が成立する教科であり、一定の評価を得ていると考える。	教科の特性をいかして、さらに学習活動にコミュニケーションの場を設定していきたい。
地歴公民	意欲的に取り組んでいる生徒の割合が相対的には高い。	現状維持に努めると共に、学習意欲や関心が高い生徒については更に力を伸ばしていきたい。また、視聴覚教材の利用や作業などをさらに多く取り入れるなど、興味関心を持たせる授業をすすめていきたい。
数学	およそ半数の生徒が意欲的に取り組めてはいるが、学習している内容が生徒にとって興味がなかったり、内容も難しく進度も早いと感じている生徒が多数みられる。	難しいと感じている生徒に、意欲的に取り組ませるようにすることは勿論であるが、逆に意欲的に取り組んでいる生徒について、きちんと評価してあげられる手立てを考えていきたい。また、がんばって勉強した分だけ点数化されて学力増進が実感できるような考查問題の研究を進めたい。さらに、ただ単に教科書を進めるだけではなく、生徒が興味を示すような話題を提供できるよう教材研究を進めたい。
理科	科目やコースによって生徒の取り組み方に差が出てしまい、学力の伸びを感じられていないのではないかと。	難易度は科目やコースによって感じ方が異なっているが、これまでのアンケート結果をもとに改善を図っている。また、難易度を落とさずに生徒の関心・意欲を高める工夫をするなど努力している。科学と日常生活の関連性も示しながら、興味関心を持たせる授業をすすめていきたい。
体育	授業への取り組みについて、99%が普通以上であり、高評価。一方わずかではあるが、技能の伸びを感じられていない生徒が3,6%いる。	スポーツの楽しさを「する」「みる」「支える」「調べる」など様々な楽しみ方があることを伝えていき、スポーツをより身近なものにできるよう指導していきたい。
保健	大半の生徒が意欲的に授業に取り組み、学力の定着も感じられている。	板書について指摘もあった。プリントなど利用し板書事項を少なくしたり、パワーポイントを利用したり等、板書を丁寧にする以外の方法も考えていきたい。
芸術	音・美・書3科目あるが、生徒は概ねどの科目も前向きに取り組んでいる。しかし、中には興味を示さない生徒、真剣に取り組めない生徒もあり、今後の課題にしたい。	講座の中で得意な生徒も不得意な生徒もいるので、歩調を合わせるのなかなか難しい。生徒達の反応を敏感に感じ取り、その場、その生徒にあった指導を心掛け対応していきたい。
英語	授業では、大半の生徒が落ち着いたのびのび学習しており、そのおかげで学力が身につけている生徒が多い。基礎力不足のため、なかなかそうはいっていない生徒もいる。	授業での作文などの学習活動の中に、基礎的で大切なことを繰り返し織り込み、これを定着させるとともに、進路実現に役立つ英語検定などへの意欲も高めていきたい。
家庭科	実習には意欲を示すが、座学になると、あまり意欲的でない生徒がみられる。	視聴覚教材や、作業的な課題等をさらに多く取り入れるなど、五感を刺激する教材を工夫していきたい。また、基本的な生活技術を時間をかけて習得させることを心掛けていきたい。
情報	生徒の中でPCの操作技術に差があるため、個々のスピードに合わせた授業展開が困難である。	放課後の補習を利用して間に合わせたり、授業中の個別指導に時間を費やすことが必要である。また、先に進んだ生徒が遅れている生徒にアドバイスするなど、生徒間での協力も促していきたい。